

平成 27 年度伊方原子力発電所周辺環境放射線等調査計画(案) (概要)

線部は前年度からの変更箇所

I 環境放射線等調査計画

1 調査の目的

- (1) 周辺住民等の線量の推定及び評価
- (2) 環境における放射性物質の蓄積状況の把握
- (3) 原子力施設からの予期しない放射性物質又は放射線の放出の早期検出及び周辺環境への影響評価
- (4) 異常事態又は緊急事態が発生した場合における環境放射線モニタリングの実施体制の整備

2 調査機関

愛媛県及び四国電力㈱

3 調査対象期間 【実施期間の変更】

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

4 調査項目、頻度及び地点数

平成 27 年度の調査計画は、愛媛県実施分は、表 1 のとおり、四国電力(株) 実施分は、表 2 のとおりであり、調査項目、調査頻度及び調査地点数に平成 26 年度計画から変更はない。

なお、愛媛県調査分の可搬型ポスト測定については、可搬型ポストの増設に伴い、対照地点を除く全 10 地点での同時測定を実施する。

また、四国電力(株) 設置の周辺モニタリングポストの一部については、本年度内に測定器の更新や津波対策に伴う地点変更を行う。

(愛媛県実施分)

項 目		頻度	地 点 数		
放射線	線量率 (固定局) (定 点・スペクトロメータ) (定 点・モニタリングカー等) (定 点・可搬型ポスト) (定 点・サーベイメータ) (走行測定・モニタリングカー) (走行測定・一般車両)	連続 4回 4回 2回 2回 2回 2回	20 (伊方町九町越他) 10 (伊方町九町越他) 7 (発電所敷地境界他) 11 (伊方町九町越他) 80 (緊急時モニタリング候補地点) 5ルート 5ルート		
	積算線量 (蛍光ガラス線量計)	4回	45 (伊方町九町越他)		
放射能濃度	核種分析等	陸上試料	大気浮遊じん (固定局)	連続	1 (伊方町九町越)
			大気浮遊じん (定 点)	4回	5 (伊方町九町越他)
			陸 水	4回	2 (伊方町九町他)
			土 壤	4回	3 (伊方町九町越他)
			み かん	1回	10 (伊方町九町アラカヤ他)
			野 菜 (葉菜)	2回	3 (伊方町九町他)
				1回	1 (大洲市五郎)
			生しいたけ	1回	1 (大洲市肱川町)
			精 米	1回	1 (西予市宇和町郷内)
			製 茶	1回	1 (西予市宇和町)
			牛 乳 (原乳)	1回	1 (西予市宇和町山田)
			魚 類	1回	1 (大洲市肱川)
杉 葉	4回	2 (伊方町九町越他)			
降下物、降水	12回	2 (伊方町九町越他)			
放射能濃度	核種分析等	海洋試料	海 水	4回	1 (伊方町平瀨透過堤沖)
			海 底 土	4回	2 (伊方町平瀨透過堤北東他)
			魚 類 (めばる等)	4回	1 (伊方町九町越沖)
				1回	2 (大洲市長浜沖等)
			無脊椎動物 (むらさきいか等)	4回	1 (伊方町九町越沖)
				1回	1 (大洲市長浜沖)
海 藻 類 (ほんだわら等)	4回	1 (伊方町九町越沖)			
気象要素 (風向、風速、降雨量、気温等)		連続	1 (伊方町九町越)		

(四国電力株実施分)

項 目		頻度	地 点 数		
放射線	線量率 (固定局)	連続	15 (伊方町九町越他)		
	(定 点・サーベイメータ)	4回	4 (発電所敷地境界)		
	積算線量 (蛍光ガラス線量計)	4回	25 (発電所敷地境界他)		
放射能濃度	核種分析等	陸上試料	大気浮遊じん	4回	1 (伊方町九町越)
			土 壤	2回	3 (伊方町九町越他)
			み かん	2回	2 (伊方町九町越他)
			杉 葉	4回	1 (伊方町九町越)
	海洋試料	海 水	4回	2 (伊方町平瀨透過堤沖他)	
		海 底 土	2回	3 (伊方町平瀨透過堤北東他)	
		無脊椎動物 (さざえ)	4回	1 (伊方町九町越沖)	
		海 藻 類 (ほんだわら等)	4回	2 (伊方町九町越沖他)	

5 調査結果の評価方法

項 目		評 価 方 法
放射線	線量率	<ul style="list-style-type: none"> ・ 降雨時と降雨時以外に分け、過去 2 年間の「平均値＋標準偏差の 3 倍」と比較 ・ 過去の最小値から最大値までの範囲と比較
	積算線量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛媛県実施分については、過去の測定値の最小値、最大値、「平均値＋標準偏差の 3 倍」と比較 ・ 四国電力(株)実施分については、過去の測定値の最小値、最大値、「平均値＋標準偏差の 3 倍」と比較 ・ 測定結果から外部被ばく線量を算出
放射能濃度	核種分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な人工核種であるコバルト-60、セシウム-134、セシウム-137、ヨウ素-131 について、過去の最小値、最大値と比較 ・ 土壌、海底土中のセシウム-137 の変動状況の評価 ・ 農水産食品等の測定結果から内部被ばく 預託実効線量を算出

II 放射性物質の放出管理状況に基づく線量評価計画

1 評価機関 愛媛県及び四国電力(株)

2 測定及び評価の方法

発電所からの気体、液体廃棄物の放出放射エネルギー及び気象状況から、国が定める計算方法により、周辺公衆の線量を評価し、安全協定に定める努力目標値(7 マイクロシーベルト/年)と比較する。